

甲斐美嶺 (かいみれい)

登録番号：第8558号

登録年月日：平成12年12月22日

登録者：山梨県（山梨県甲府市丸の内1-6-1）

育成者：雨宮毅 小澤俊治 望月太
古屋清 平林利郎 三宅正則
安藤隆夫 齊藤典義 精進

剛 近藤真理 別所英男 小池
浩一

来歴：「レッド・クィーン」と「甲州三尺」の交雑実生

育成地：山梨県山梨市（山梨県果樹試験場）

特 性

■栽培特性

発芽期は試験地（山梨県山梨市）で4月下旬であり、「巨峰」とほぼ同時期である。満開期は6月上旬で、「巨峰」よりやや遅い。3倍体品種であるため、樹勢は強く新梢の伸びは旺盛である。1新梢当たり2～3花穂を着け、着房は良好である。花は完全花（両性花）であり、花粉の量は中程度である。花振るいは少一中で結実は良好である。裂果はほとんど発生しない。

■果実特性

果皮色は黄緑色で果粉は少ない。果面のしみやサビは少なく、外観は美しい。果粒は3倍体であるため無核であるが、まれに有核粒が混入する。果粒の形は偏円形で、大きさは1.6g程度である。2回のジベレリン処理（満開時25ppm＋満開10日後25ppm）によって、果粒重は5～6g程度となり、形は短楕円形になる。果房の形は有岐円筒形である。肉質は塊状で、弱いフォクシー香を持つ。果汁の糖度は屈折計示度で約18度で、酸味が適当にあり食味はさわやかである。収穫期は試験地で8月上中旬であり、「巨峰」と同時期かやや早い。また、脱粒しにくいので輸送性に優れる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

圃場におけるべと病や晚腐病等の病害の発生は少なく、「巨峰」に準じた薬剤散布で問題となる病虫害は認められない。また、近年「ロザリオピアンコ」等の白色系品種で問題となっているかすり症状の発生も認められない。

樹勢が強いため、幼木時はせん定を弱めに行い、十分に樹冠を広げることが重要である。房持ちが良いため、短梢せん定も可能である。自然状態では果粒が小さいのでジベレリン処理が必須である。フルメット処理による果粒肥大効果も認められるが、若干糖度が低下する傾向にある。

房作りは、樹勢が旺盛な樹においては、房尻を1cm程度摘んで、その上8cmを使用し着粒を確保する。落ち着いた樹においては、房尻を摘まずに10cm程度を使用すると、摘粒の作業が省力化でき、無摘粒で済む場合もある。果房重350～400gを目標に70～80粒を着生させるとよい。

■地域適応性

全国のブドウ産地での栽培が可能であるが、酸抜けが遅いことを考慮すると寒冷地を除く地域での普及が見込まれる。貴重な早生の白色系品種として、また果房の棚持ちが非常に良いことから観光園での利用にも適すると思われる。

(宇土幸伸)